

中施策評価書

作成日 令和04年 4月 28日

中施策事業名	予算編成事務	部課名	行政経営部・財政課
		作成者	萩野昭久
①めざすまちの姿	23 世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策となっている		
②大施策	世代、性別などで不公平感のない予算配分や施策を実施する		
③中施策	多くの市民が公平と感じる施策を実施する		
④中施策事業の対象	市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	世代、性別等で不公平感のない予算配分となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 当初予算関連事務事業(予算編成、予算書調製) ・ 当初予算関連事務事業(当初予算の概要作成(消費税・都計税充当表)) ・ 当初予算関連事務事業(県当初予算概要作成) ・ 当初予算編成過程公表事業 ・ 枠配分予算に関する事務事業 ・ 補正予算関連事務事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
世代で不公平感のない予算配分や施策となっていると思う割合※	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	26.9	28.7	30.6	32.6	35	37.1
	実績値	34	31				
	単位 %						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費(a+b)				6,295千円	3,299千円	
	a 事業費合計			6,295千円	3,299千円	6,639千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等（収入）			0千円	0千円
③ コスト（①－②）			6,295千円	3,299千円		
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））			91 円	48 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 評価指標は、目標値を超えている。今後も引き続き、不公平感のない予算配分や施策を行い、予算編成過程も公表し、市民からも評価されるよう取り組んでいく。コストは、システム関連であるため削減は難しいが、R3は延長利用によるコスト減となっている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	今年度も引き続き部門別包括予算制度による予算編成を予定している。公共施設の改修などの事業が今後も予定されていることから、歳入・歳出の計上について一層の適正化を進めていくこととする。枠配分予算についても、実施計画事業との調整や過去の実績（決算）を参照し、各部への配分を行っていくこととする。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	公共施設の長寿化対策や東部知多クリーンセンター負担金など、多額の費用を要する事業等の実施が見込まれることから、将来にわたる必要な予算を試算し、歳入を見極めつつ、企画政策課など関連部署と連携しながら連続性ある予算編成を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和05年 4月 24日

中施策事業名	財政運営・地方債事務	部課名	行政経営部・財政課
		作成者	萩野昭久

①めざすまちの姿	24 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている
②大施策	収入を確保し、持続可能な財政運営を行う
③中施策	持続可能な財政計画を立て、評価・改善する
④中施策事業の対象	市民
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	基金の管理、地方債の発行など将来を見据え計画的に行うことにより、適正な負担となるような財政運営がされている
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・市財政全般に亘る企画調整関連事務 ・普通交付税関連事務 ・特別交付税関連事務 ・決算統計関連事務 ・財政健全化法関連事務 ・起債関連事務 ・公営企業関連事務 ・決算関連事務 ・財政状況公表事務 ・補助金進管理事務 ・消費増税に伴う使用料等改定に関する事務 ・長期財政推計関連事務 ・公会計事務

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
将来負担比率	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	-22.4	-23.2	-24.1	-25	-24	-24.3
	実績値	-44.3	-55.8				
単位	%						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費(a+b)				2,849千円	2,851千円	
	a 事業費合計			2,849千円	2,851千円	2,728千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				2,849千円	2,851千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				41 円	41 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 目標値は、計画どおりとなっている。引き続き、長期的な視点での基金管理、起債発行を行っていく。コストについては、公会計関連や業務で使用するシステム関連の費用である。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	2022（R4）年度の基金積立は、各基金の今後の状況を考慮し行っていく。起債発行は有利な起債を活用しつつ、残高などを見て運営を行っていくこととする。 起債の内、臨時財政対策債は他の建設事業債とは趣旨が違い、普通交付税と一体の仕組みであり、地方自治体の財源不足額を補う仕組みである。そのため、今後も満額発行を前提に行っていく。なお、臨時財政対策債の元利償還相当額は後年の交付税交付税で措置されることとなっている。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	施設の長寿命化、災害への備えなど持続可能な行政運営には、今後も将来に備えるための各種基金への積立が必要な状況であることから、引き続き、必要な積立を行っていく。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 6月 6日

中施策事業名	入札契約事務	部課名	行政経営部・財政課
		作成者	萩野昭久
①めざすまちの姿	24 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている		
②大施策	収入を確保し、持続可能な財政運営を行う		
③中施策	税金を効果的、効率的に使う		
④中施策事業の対象	入札参加資格審査対象者及び入札参加者等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	地方自治法に従った経済性、公平性、競争性を兼ね備えた適正な入札及び契約が行われている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 工事及び物品等入札参加資格関係事務 ・ 請負契約関係事務 ・ 指名業者選定関係事務 ・ 電子調達関係事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
第1四半期に適正な入札事務が実行された率	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	38	38	38	38	39	40
	実績値	36.8	35.5				
	単位	%					
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費(a+b)				2,958千円	2,965千円	
	a 事業費合計			2,958千円	2,965千円	3,043千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等（収入）				0千円
③ コスト（①－②）				2,958千円	2,965千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				43 円	43 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 評価指標は、目標値に届かなかった。要因は、補正予算で実施する工事が多くあり、その工事の発注が後半にかたまり、結果的に率を下げたためである。しかし、早期に発注する考えは、担当課においてはかなり浸透してきている。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	設計審査委員会などの工事担当者の集まる場において、工事発注見通しに基づいた進捗管理の徹底を行う。また、庁内掲示板などを利用した担当部課への早期発注の呼びかけを行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	債務負担行為の活用や繰越手続きの活用などの対応を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和04年 5月 2日

中施策事業名	工事検査事業	部課名	行政経営部・財政課
		作成者	萩野昭久
①めざすまちの姿	24 税収が確保され、持続可能な財政運営となっている		
②大施策	収入を確保し、持続可能な財政運営を行う		
③中施策	税金を効果的、効率的に使う		
④中施策事業の対象	工事請負業者		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	請負契約書の内容に従って、工事が適正に実施されていることを検査によって確保することで、成果の品質が高いレベルで保持され、施工者に対しても技術的な水準向上が図られている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 主要工事進行管理事務 ・ 工事検査事務 ・ 補助事業の審査及び検査関係事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
平均工事成績評定 点	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	78	78	78	78	78.5	79
	実績値	74.4	79				
単位	点						
	事業実施年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和02年度	令和03年度	令和04年度
① 総事業費(a+b)				39千円	0千円	
人件費	a 事業費合計			39千円	0千円	31千円
		正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等（収入）				0千円
③ コスト（①－②）				39千円	0千円	
市民一人あたりコスト （③／市の人口（評価対象年度末時点））				1 円	0 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	コストを縮減して目標が達成できた	○	A
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	A 評価指標が、前年度より上昇しており、目標値を達成することができた。評定点が普通より低いものが無くなったため全体を押し上げたことが要因として考えられる。今後も工事成果の品質が高いレベルで保持されるように施工者に指導していく必要がある。
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	・ 豊明市優良工事公表要領に基づき、優良工事の公表を行い、施工業者の表彰を行う。 ・ 前年度の工事实績を担当部局に公表する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	検査時に多かった指摘事項を中心に整理、把握し、重点的に改善を促すよう指導する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等